

16. 有害生物出現調査並びに有害生物出現情報収集・解析及び情報提供委託事業（大型クラゲ出現調査及び情報提供事業）（受託研究）

担当者 調査研究部 渡野邊雅道・佐藤 政俊
 共同研究機関 中央水試資源管理部海洋環境G
 協力機関 渡島西部地区水産技術普及指導所

（1）目的

全国的な大型クラゲ動態調査に協力して、その出現分布情報を迅速に把握し、これを漁業者などに提供・広報する。このことによって、今後の出現予測や被害防止のための施策に役立てるとともに、操業の効率化と資源の効率的利用に資する。

（2）経過の概要

ア 定置網、底建網における目視調査

2012年9月から12月まで、松前町白神沖（定置網）、上ノ国町汐吹沖（底建網）および函館市白尻沖（定置網）を調査定点とし、漁業者もしくは漁協職員から大型クラゲ（主にエチゼンクラゲ）の入網情報を得た（図1）。

松前町の定点については毎日入網状況の記録を依頼し、得られた情報は週に一回の頻度で(社)漁業情報サービスセンター（以下、JAFIC）へ送付した。他の2地区については入網情報の聞き取りを行い、得られた情報は適宜JAFICに送付した。

イ 調査船による目視調査

2012年9月から12月まで、当场試験調査船金星丸がCTD観測を行った地点で大型クラゲの目視調査を行った。調査は、道西日本海の54点、道南太平洋の170点、合計224点で実施した。調査結果は、適宜JAFICへメール送信した。

ウ 成果の広報

本事業の結果は、他地区の結果とあわせてJAFICおよび北海道水産林務部水産振興課のHPで公表した。

（3）得られた結果

ア 定置網、底建網における目視調査

沿岸定点(定置網類)における大型クラゲの目撃数は、上ノ国が10月に1個体、松前が10月に5個体、函館(白尻)が9月に1個体と非常に少なかった(表1)。

イ 調査船による目視調査

調査船による沖合域での目視調査では、大型クラゲは目撃されなかった(表2)。

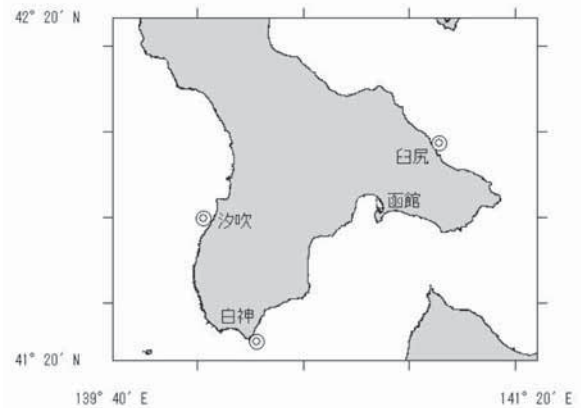


図1 調査地点図 (◎：調査定点)

表1 調査定点における大型クラゲの出現数

調査期間	上ノ国	松前	白尻
9月	上旬	0	0
	中旬	0	0
	下旬	0	0
10月	上旬	2	0
	中旬	1	0
	下旬	3	0
11月	上旬	0	0
	中旬	0	0
	下旬	0	0
12月	上旬	0	0
	中旬	0	0
	下旬	0	0

表2 調査船による大型クラゲの目撃数

調査期間	海域	目撃数
8/28-31	道南太平洋	0
9/10-12	道南太平洋	0
9/20-24	道西日本海	0
10/30-11/1	道南太平洋	0
11/5-8	道南太平洋	0
11/26-12/3	道南太平洋	0
12/12-18	道西日本海	0

調査点数 道南太平洋：170点、道西日本海：54点